



武山 全くその通りだと思います。非常に重要な点ですね。これはインフレーションの一誘因です。

大使 カナダでは、夏期休暇になると、大学生もアルバイトをして、労働力に大いに寄与していたのですが、彼らにも最低賃金を支払わなければならないようになったため、学生を雇うことが難しくなりました。チップが必要なサービス業の場合も同様です。ウェイトルスを雇うと最低賃金を払うだけでなく、ウェイトルスが多すぎると、チップの分け前もそれだけ減るといふことで、組合も文句を言っています。同じような問題は日本でもでてきているようですね。

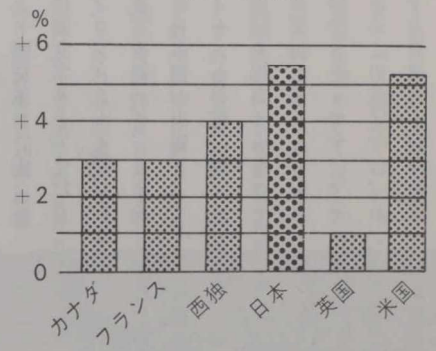
武山 いいことか、悪いことか知りませんが、日本も他の先進工業諸国に追いついてきているようです。

日本に必要な

産業構造の転換

大使 いろいろな面で、日本は他の国々をしのいでいますよ。日本の奇蹟については、世界全体が感心しています。ただ、そういう高度成長が永遠に続くものと考えていたんでしようね。日本にきてまだ二年にしかありませんが——もつと長く滞在しないと日本を詳しく知ることはできないということも承知しているのですが——日本の産業の中には、度を越すというか、生産能力をむやみに拡張する傾向があるようですね。その一例が造船だと思ふのですが、最盛期には誰も二年先にどうなるか考えようともしなかった。需要は常にあるとみんな思っていたのが、今や需要は大幅に減り、施設は過剰になってしまつた。

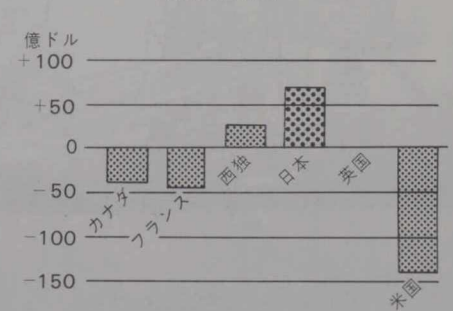
主要各国の実質経済成長率
(1977年予測)



それよりもつと緊急の問題は、特に米国と欧州共同体に対する大幅な貿易黒字ですが、これについては今年いっぱい、あるいはここ一、二年は少々悲観視しています。大幅黒字を減らしていくか、日本市場をもつと開放するか、それ以外に解決法はない感じがします。流通システムを若干変えるとか……。しかし、円高と主要貿易相手国から受けてきたいろいろな圧力を考えると、どうしても楽観的になれないですね。どうしたらいいか、私などには分りませんが、再びインフレーションを招来することなく景気を再浮揚させるようないい方法が見つかってくれればいいですね。

武山 人間というのは保守的で、中々環境の変化に応じて変わろうとしないですね。ご指摘のように、日本の経済は一九七〇年代になつても、一九六〇年代と同じ外的、内的環境にあるような錯覚をしていた。造船だけでなく、繊維にしても、化学工業などにしてもそうです。二年、三年、あるいはもつとかかるかも知れませんが、日本は産業構造の転換をしなければだめですね。過剰生産能力を削

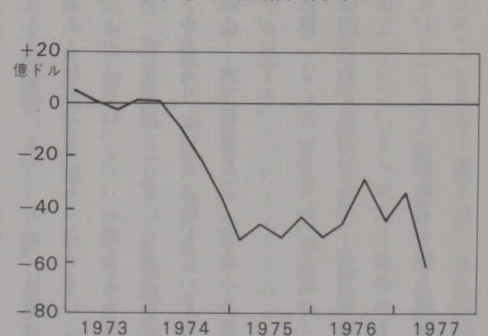
経常収支
(1977年推定)



らなければなりません。一九六〇年代の初めに、炭鉱閉鎖など、きわめて大規模な産業構造の変革を行いました。鉱山労働者や経営者にとつては、いろいろと苦労も多かったのですが、高度経済成長の時期であつたため、とにかくやり遂げることができました。現在では状況も変わり、非常にやりにくいとは思いますが、産業構造の再編成はぜひ必要です。日本はまだ国内需要を拡大する政策をとるべきですが、国際収支の改善などについては、ロッキード事件やらで取り組みが大きく遅れてしまいました。政府は資金投入によつて国内景気の再浮揚を図るべきですよ。ただ、外国は日本に矛盾したことを要求しています。例えば、一方でできるだけ経済成長を高めよと主張しながら、円をできるだけ高いレートにもつてゆけ、という……。われわれは均衡を保たなければなりません。私としては、七八年度の経常国際収支が七七年度のおよそ半分になれば結構だと思います。そうしないと、円は二二〇円まで引き上げられる恐れがあります。

大使 カナダ・ドルはすでに二二〇円

カナダの経常国際収支



を割っています。……いろいろなことを同時にやるのはむずかしい時期ですね、今は。日本は現在の大幅黒字を赤字にせよ、なんていわれているのですが、これは不可能だと私は思いますね。

武山 いついつまでにある目標を達成するというのは、どういう国にとつてもほとんど不可能です。米国に対して、一定の期限までにどのレベルまでドル価を安定させてくれといつても、そういうコミットメントは米国もしにくいですよ。

閉鎖的な日本市場

大使 ただ、少なくとも日本市場をもつと開放してもらいたいという点では、他の主要対日貿易相手国と同意見です。関税の引き下げ云々といつたつて、その大小に関わらず、私はあまり喜ばません。私が気にしているのは関税ではないんです。気にしているのは、法令に明記されていない衛生とか電気に関する基準といった、いろいろな規制あるいは流通機構など、すなわち非関税障壁です。

武山 ちょっとお待ち下さい。非関税障壁というのは、一体どういうことだし